

労働安全衛生・保安防災に対する取り組み

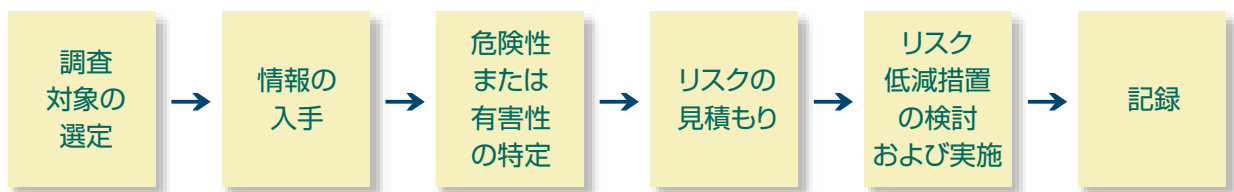
工場の安全操業、労働災害撲滅は最優先課題です。各工場では労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS18001を導入し、自主的な安全衛生活動の推進に取り組み、従業員がより安全・健康・快適に働ける環境づくりをすすめています。

危険性・有害性の調査(リスクアセスメント)の実施

各工場では、事故の未然防止を目的に、2005年度より、設備、化学物質、作業行動などに起因する危険性・有害性の調査(リスクアセスメント)を推進しています。現在までに全工場で約3,400件の危険・

有害要因を特定しています。特定された危険・有害要因について、リスク^{*1}を見積もり、リスク低減策の検討、実施を行っています。

■リスクアセスメント実施の流れ



*1 リスク：良くない影響が起こる可能性のこと。「危害の大きさ」と「危害の起こる可能性の度合」の組み合わせ。

設備の安全対策

事故の未然防止、労働安全衛生の向上のため、防災安全関連の設備投資を優先的にを行っています。

設置後は、定期的に設備の運転を停止して、設備の点検・補修・

交換などを行い、性能や強度維持を図っています。また日頃の点検・巡視を行い、事故の未然防止に努めています。

静電気火災防止、粉塵爆発防止対策

各工場では、静電気火災防止のため、設備の接地・通電試験、帯電防止服・靴の着用、取り扱い時の散水やアースの徹底などの安全対策を実施しています。また粉塵爆発対策として、設備対策、静

電気防止対策はもとより、取り扱う粉体について、事前に粉塵爆発性データの収集・解析を行い、評価した上で安全性が懸念される場合は窒素ガスの封入などの対策を実施しています。

日々の取り組み

定期的な職場点検において、不安全状態や不安全行動を発見し、速やかにその是正措置を講じています。また、ヒューマンエラーによる事故・災害の防止に向けて危険予知活動(KYT)、ヒヤリハット事例の摘出と改善対策、指差呼称活動などの予防活動を積極的に展開しています。その他にも、5S活動、改善提案、小集団活動を実施しています。各事業所では火災、爆発、漏洩および自然災害などの災害を想定した教育・防災訓練を実施し、万一の緊急事態に備えています。



防災訓練(新潟工場)

労働安全衛生教育

各事業所では、安全な作業方法、化学物質の安全な取り扱い方法などの業務に必要な安全衛生知識について、入社時・配属時に教育を行っています。また、生産開始前には、作業に従事する従業員に工程上の注意点、保護具の着用などについて指導を行っています。班長・主任・課長に対しても階層に応じて定期的に講習を行っています。

岡山工場では現場の社員に対し、外部講師を招き、危険予知活動(KYT)などの研修を定期的実施しています。



新入社員に対する教育風景(岡山工場)

従業員への教育支援、資格取得支援

環境・安全の分野に関連した通信教育講座を提供し、修了者には奨励金を支給するなど、自主的な能力開発を支援しています。

2006年度における環境・安全関連の受講者は延べ89名に達し、職場での実務に活用されています。

業務上、資格が必要な業務に対しては、必ず有資格者を従事させ、法的に必要な人数以上の有資格者を確保していますが、自己啓発・技能向上を目的として、業務に関する資格の取得を支援しています。2006年度は、新たに延べ67名が労働安全衛生に関する資格を取得しています。

■2006年度 環境安全関連の通信教育講座 受講者数

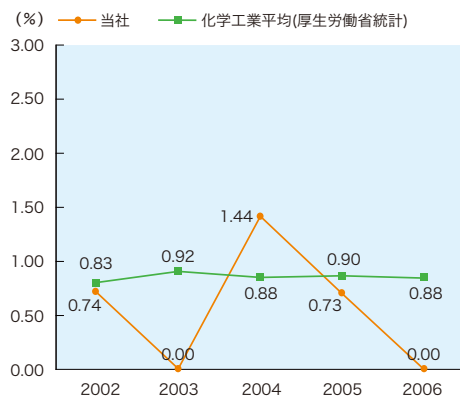
講座部門	受講者数(名)
環境関連	14
労働安全関連	58
資格取得関連	17
合計	89

休業労働災害

2006年度は、OHSAS18001の導入や各事業所の安全への努力が効果を表し、「休業災害ゼロ」の目標を達成できました。今後とも労働安全衛生活動の推進により、事故の未然防止に努めます。

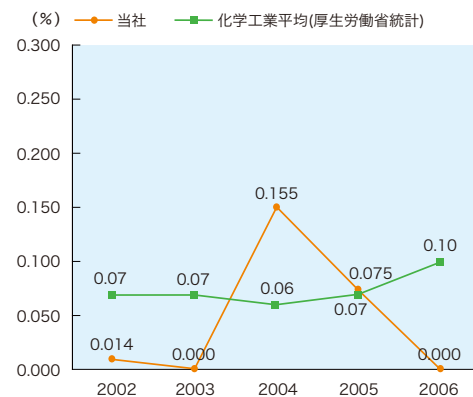
当社の休業災害の度数率および強度率は、概ね化学工業の平均以下で推移しています。

■休業災害の度数率



度数率：災害発生の頻度を示す指標
 $(\text{労災死傷者数}) \div (\text{延べ労働時間}) \times 100 \text{ 万}$

■休業災害の強度率



強度率：災害の重さの程度を示す指標
 $(\text{労働損失日数}) \div (\text{延べ労働時間}) \times 1000$